

## 平成21年度人材委員会活動報告（中間報告）

### 1. 会議開催状況

#### (1) 人材委員会

##### (第1回)

日時：平成21年7月17日（金）14：00～15：40

場所：京都大学附属図書館4階 研修室

議題：

- ・ 平成21年度人材委員会の体制について
- ・ 平成21年度人材委員会における検討・実施事項について
  - (1) 平成21年度事業計画
  - (2) 国立大学図書館協会シンポジウム企画
  - (3) 平成21年度マネジメント・セミナーの実施について
  - (4) 平成21年度以降の海外派遣事業について
  - (5) その他（他機関が実施する研修計画との調整及び連携）
- ・ 平成21年度人材委員会小委員会の設置及び体制について

##### (第2回)

日時：平成21年10月22日（木）16：30～17：30

場所：山形大学本部事務棟（小白川キャンパス）事務局棟第1会議室

議題：

- ・ 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム実施要項
- ・ 平成22年度のマネジメント・セミナーについて
- ・ 海外派遣事業の継続について

#### (2) 人材委員会小委員会

##### 1) 人材育成事業グループ

##### (第1回)

日時：平成21年7月17日（金）15：50～17：30

場所：京都大学附属図書館4階 研修室

議題：

- ・ 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウムの実施について
- ・ 平成22年度の事業計画について
- ・ 海外派遣事業について
- ・ 他機関が実施する研修事業との連携について
- ・ 研修事業のあり方について

##### (第2回)

日時：平成21年8月21日（金）14：00～17：00

場所：東京大学駒場図書館会議室

議題：

- ・ 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウムの実施について

##### (第3回)

- 日 時：平成21年10月22日(木) 14:30～16:30  
場 所：山形大学本部事務棟(小白川キャンパス)事務局棟第1会議室
- ・平成21年度国立大学図書館協会シンポジウムの実施について
  - ・平成22年度海外派遣事業について
  - ・平成22年度マネジメント・セミナーについて

## 2) 人事政策デザイングループ

### (第1回)

- 日 時：平成21年7月17日(金) 15:50～17:30  
場 所：京都大学附属図書館4階 研修室  
議 題：
- ・平成21年度の検討・実施事項について
  - ・平成21年度事業展開及びタイムテーブルについて

### (第2回)

- 日 時：平成21年10月22日(木) 14:30～16:30  
場 所：山形大学本部事務棟(小白川キャンパス)事務局棟第2会議室
- ・人事政策に関するアンケート調査について

## 2. 活動成果

### (1) 第5回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

- テーマ：「大学運営の中での図書館職員のあり方」  
日時：平成21年6月20日(土) 9:00～12:00  
場所：万代シルバーホテル5階「昭和の間」  
受講者数：121名(79機関)

### (2) 海外派遣の実施

- 海外派遣者の審査結果に基づき、2名を米国へ派遣した。  
調査研究テーマ：米国大学図書館における図書館サービス測定・評価の活用

### (3) 他機関が実施する研修事業との連携

- 「平成21年度大学図書館職員短期研修」  
主 催：国立情報学研究所  
共 催：京都大学附属図書館、東京大学附属図書館  
会場等：平成21年9月29～10月2日 京都大学 参加40名(30機関)  
平成21年10月27～30日 東京大学 参加45名(38機関)

## 3. 今後の予定・方針

### (1) 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム

- テーマ：「利用者から学ぶ - 個性的で多様な図書館サービスに向けて」  
対象者：国公立大学図書館職員  
会場等：西日本 平成21年11月20日(金) 神戸大学  
東日本 平成21年12月15日(火) 一橋大学

### (2) 海外派遣事業の継続及びあり方についての検討

## 第5回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書

平成21年11月30日

人 材 委 員 会

1. テーマ

「大学運営の中での図書館職員のあり方」

2. 日時

平成21年6月20日(土) 9:00～12:00

3. 場所

万代シルバーホテル 5階「昭和の間」(新潟市中央区万代1-3-30)

4. 受講者数

部長級	30 機関	32 名
課長級	77 機関	89 名
合計	(重複を除く) 79 機関	121 名

5. プログラム (別紙1「講演及びオープン・ディスカッション概要」参照)

	司会: 川瀬 正幸 (人材委員会 / 京都大学附属図書館事務部長)
9:00～ 9:10	開会 挨拶: 藤井 譲治 (人材委員会委員長 / 京都大学附属図書館長)
9:10～ 9:50	「学術情報基盤の中核としての図書館の人材基盤について」 青木 利根男 (国立情報学研究所学術基盤推進部次長)
9:50～ 10:40	「それで大丈夫、図書館職員」 大久保 政博 (静岡大学学術情報部長)
	休憩
10:55～ 12:00	オープン・ディスカッション コーディネータ: 大場 高志 (人材委員会 / 一橋大学学術・図書部長) コメンテータ: 青木 利根男, 大久保 政博
12:00	閉会

6. 受講者アンケート結果 (別紙2「アンケート集計結果報告」参照)

回答者: 100名 (回答率: 82.6%)

## 7. 収支決算

収入		支出	
協会費	411,265 円	会場借料(会場及び附帯設備使用料)	307,755 円
		講師旅費・謝金	0 円
		資料印刷費	70,550 円
		会議費(講師打合せ用弁当, 受講者用飲料)	32,960 円
合計	411,265 円	合計	411,265 円

## 8. 運営スタッフ

人材委員会	広島大学図書館 副図書館長	石井 道悦
	東北大学附属図書館 事務部長	片山 俊治
	東北大学附属図書館 情報サービス課長	小陳 左和子
	東京大学教養学部等 図書課長	市村 櫻子
	京都大学附属図書館 総務課長	木下 聡
	大阪大学附属図書館 図書館企画課長	白木 俊男
	大阪教育大学附属図書館 学術情報課長	島 文子
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
総会当番館 (協力)	新潟大学附属図書館 学術情報部長	友光 健二
	新潟大学附属図書館 学術情報管理課長	大石 博昭
	新潟大学附属図書館 学術情報サービス課長	高島 学
	新潟大学附属図書館 学術情報管理課副課長	星 和夫
	新潟大学附属図書館 学術情報管理課 総務係長	高橋 昌子

以上

第 5 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 講演及びオープン・ディスカッション概要  
〔平成 21 年 6 月 20 日（土）9:00～12:00 於 万代シルバーホテル 5 階「昭和の間」〕

1. 学術情報基盤の中核としての図書館の人材基盤について

青木 利根男(国立情報学研究所学術基盤推進部次長)

国立大学図書館協会人材委員会での活動経験に基づき、図書館の人材基盤の現状について問題提起があった。知識資源の電子化や情報流通の形態の変化に伴う職務内容の高度化、法人化に伴う要員・組織の変化（縮小）など図書館を取り巻く状況が大きく変化する中で、学術情報基盤の中核としての人材基盤（人材を継続的に育成・確保していくための体制）がますます重要性を増していることが指摘された。同時に現状のジレンマをふまえ、今後の方向性について提案があり、組織としてプロの専門家集団として成り立っていくための教育システム、図書館にコアな人材を配置することの必要性が理解されるために意識的な PR などの必要性の確認とともに、人材育成のための新しい連携の重要性が示された。

2. それで大丈夫、図書館職員

大久保 政博(静岡大学学術情報部長)

多様なキャリアをもつ管理職としての視点から、図書館職員と図書館の管理職のあり方について講演があった。図書館の一般職員に対して、日常の図書館業務において利用者や他部署とのコミュニケーション能力の重要性、TPO をわきまえる、時代の流れを常にキャッチアップするなど、様々なことを意識することが図書館の専門性を確保した上で重要であることが示された。そのうえで、管理職に向けては、大学という視点での経営概念をもち、情報を有機的に活用する能力を持ち、明るくてやる気のでる組織集団を作ることが重要であるとの指摘があった。また、静岡大学図書館の人事や選書等の実践例を取り上げ、専門性を生かすため、大きな意識改革を行うことの必要性、図書館活動の PR により図書館の理解者を増やすことが必要不可欠であること、さらに管理職は図書館と大学の両面を常に意識する必要性が示された。

3. オープン・ディスカッション

コーディネータ：大場 高志(一橋大学学術・図書館部長)

コメンテータ：青木 利根男, 大久保 政博

各講演者がコメンテータとなり、コーディネータの調整のもと会場の受講者との質疑応答を通して意見交換を行った。専門性を高めるための研修のあり方、他の事務部との交流人事の可能性や実施状況の報告、職員の専門性・専門的業務、大学の運営者との情報共有について、次のような様々な意見が出され、人材育成に関連する多様な課題を確認することができた。

(意見の概要)

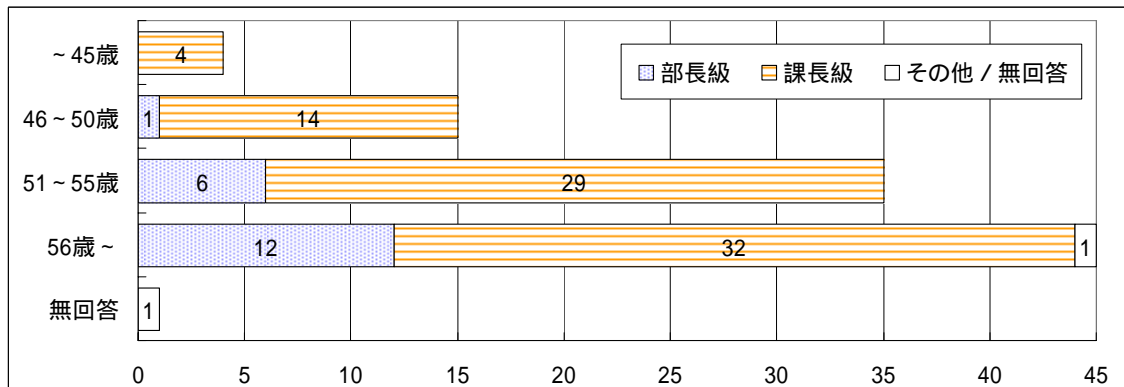
図書館職員が教育研究の現場に積極的に関わり PR することにより、図書館サポーターとなる教員を増やすことが必要。図書館管理職から積極的に具体的な事業計画を示すことで、図書館職員が大学の事業（教員）を支えるパートナーとなり得る。研修については積極的に「教える側」になることが人材養成として効果的である。図書館職員の層が比較的厚い国立大学図書館が連携をより深めて、人材育成に関連する多様な課題を検討し、私立大学図書館や公共図書館等とも情報交換を広めていく、等。

## 第 5 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

(平成 21 年 6 月 20 日(土)9:00～12:00 於 新潟・万代シルバーホテル 5 階「昭和の間」)

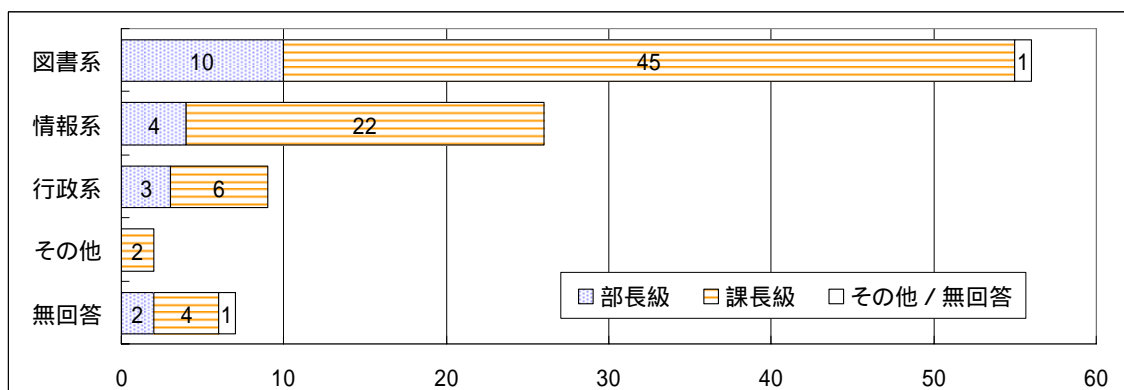
1. 回答数 100 名(受講者 121 名中), 回答率: 82.6%

### 2. 年齢



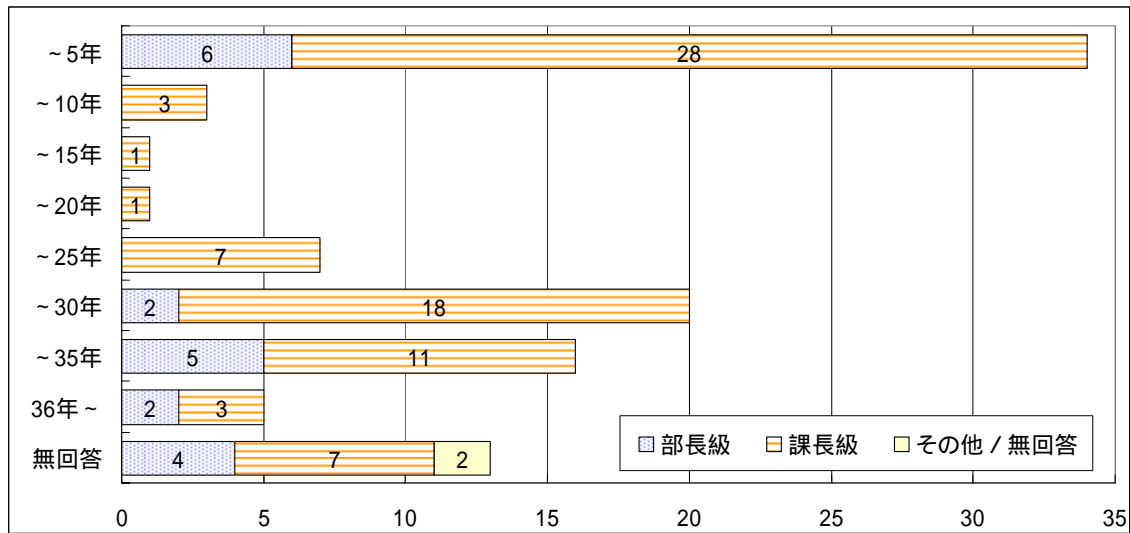
	~45歳	46~50歳	51~55歳	56歳~	無回答	合計
部長級相当職	0	1	6	12	0	19
課長級相当職	4	14	29	32	0	79
その他/無回答	0	0	0	1	1	2
合計	4	15	35	45	1	100

### 3. 職系



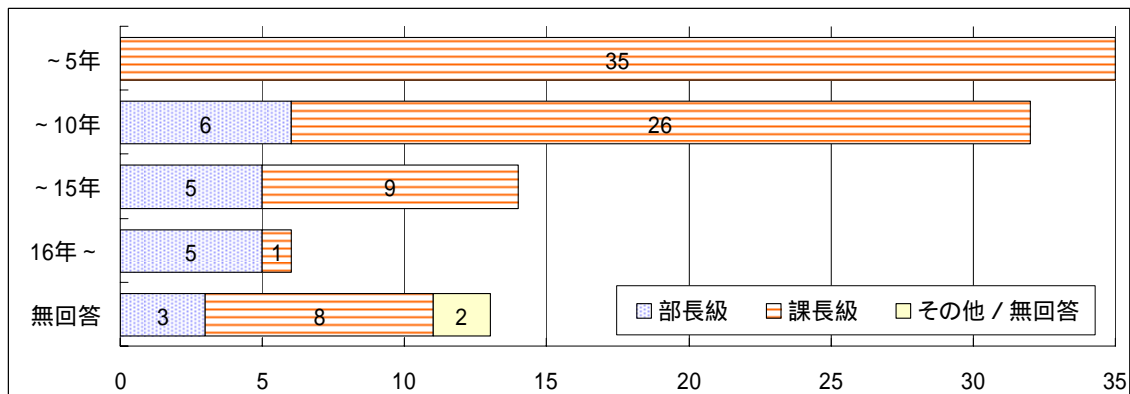
	図書系	情報系	行政系	その他	無回答	合計
部長級相当職	10	4	3	0	2	19
課長級相当職	45	22	6	2	4	79
その他/無回答	1	0	0	0	1	2
合計	56	26	9	2	7	100

#### 4. 図書館勤務年数



	~5年	~10年	~15年	~20年	~25年	~30年	~35年	36年~	無回答	合計
部長級	6	0	0	0	0	2	5	2	4	19
課長級	28	3	1	1	7	18	11	3	7	79
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	34	3	1	1	7	20	16	5	13	100

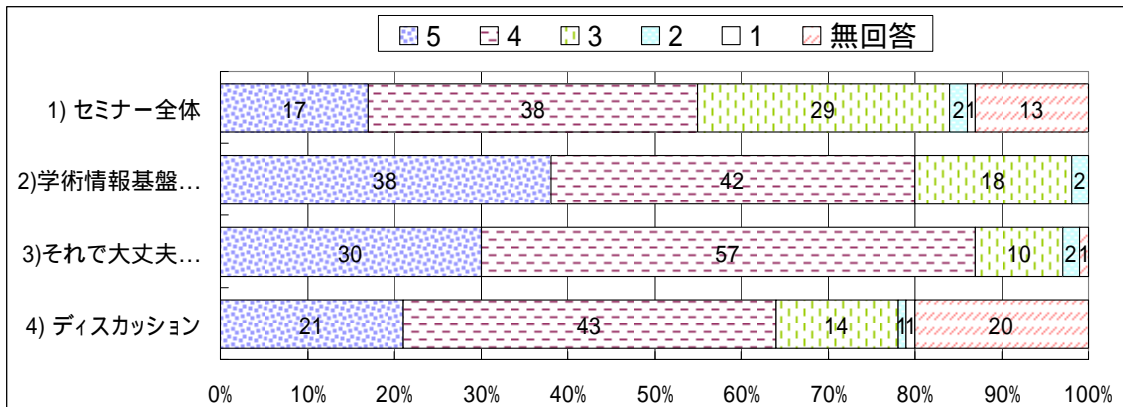
#### 5. 管理職経験年数



	~5年	~10年	~15年	16年~	無回答	合計
部長級相当職	0	6	5	5	3	19
課長級相当職	35	26	9	1	8	79
その他/無回答	0	0	0	0	2	2
合計	35	32	14	6	13	100

【参考】記名者数 全23名(部長級:3/19, 課長級:20/79, その他:0/2)

## セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考になった	3:ふつう	2:参考にならなかった	1:全く参考にならなかった	無回答
(1)セミナー全体	17	38	29	2	1	13
(2)学術情報基盤の中核としての 図書館の人材基盤について	38	42	18	2	0	0
(3)それで大丈夫、図書館職員	30	57	10	2	0	1
(4)オープン・ディスカッション	21	43	14	1	1	20
合計	106	180	71	7	2	34

【理由】 (部):部長級相当職, (課):課長級相当職, (他):その他, (無):無回答

### (1) セミナー全体

#### (5:たいへん参考になった)

- ・ 基本的な事項・知識として研修等で「記憶していたこと」を改めて意識したこと、新たに強力な刺激的な話であった。〔部〕
- ・ 学術情報基盤を支える組織運営に携わる者として、以下の点で参考になった。〔部〕
  - 人材育成の重要性を再確認できたこと。
  - 人材育成に関する取り組みや問題について知見を得ることができたこと。
  - 管理職としての職責を共有できたこと。
- ・ 図書館を担当する幹部職員のキャリアの多様化により、以前にも増して図書館という組織の存在意義を基本に立ち返って考え、運営していかなければならないことを実感した。〔部〕
- ・ 講演だけでなく、ディスカッションで実際的な意見、他大学での状況等を伺うことができ、非常に参考になりました。その意味では、事例報告等もあってもよかったのかもしれません。〔課〕
- ・ 本当はあまり期待していなかったが、とても有意義な意見が聞けた。〔課〕
- ・ 図書系職員の専門性について、大いに考えさせられた。〔課〕
- ・ 様々な視点からの検討・研究された内容だった。参考にしたい。〔課〕



#### (4: 参考になった)

- ・ 大学の理念、経営戦略をどこまで理解して今日の内容を生かせるかという点が今後の課題だと感じた。良いテーマだったと思います。(課)
- ・ 色々な立場からの意見等が聞けるのは私にとっては楽しいことなので、面白いです。(課)
- ・ 本音も出ていて有益だったと思う。大学毎に個別に考えていく必要があると感じた。(課)
- ・ 刺激的な講演が聴けたことで、大変有意義でした。(課)
- ・ 大学の取り組み事例の情報交換ができて参考になった。さらに発展させるために、図書館人事の事例集を作ってほしい。(課)
- ・ 普段から問題意識として持っていたことが裏付けられ、今後の方向性が確認できた。(課)
- ・ 常日頃、図書館職員の在り方を模索しているところであり、私にとってタイムリーなテーマであったから。(課)
- ・ 今後、図書館運営を考える上で参考になった。(課)
- ・ しばらく図書館から離れていたため、今回参加して図書館の現状が理解できた。(課)
- ・ 特にゼネラリストである私にとって、図書館の管理職としてのあり方について非常に役に立った。(課)
- ・ 今まで図書館業務を担当したことがなく(大学以外の資料室での業務はやったことがあるが)、今春から図書館も担当になったので勉強になった。(課)

#### (3: ぶつう)

- ・ どのような専門性を持った人材を組織化するか、基盤について他職と共通の捉え方をもつことが大事である。クローズの図書館から脱却して外部環境に働きかける人材育成が求められる。(部)
- ・ 初めての参加でもあり、現状・課題・取り組み等についての色々な意見や考え方を、有効に本学運営に役立てていきたいと感じた。(課)
- ・ 発言者の思いはわかるが、実際に自己の大学内でどういう対策を講じているのかまでの中で発言であってもよいのでは。(部)
- ・ 他機関の情報は参考になった。(課)

#### (2: 参考にならなかった)

- ・ 3時間もかける内容ではなかったと感じた。(課)

#### (無回答)

- ・ 内容が専門的で理解不足である。(部)
- ・ 今回のセミナーはよかった。(課)
- ・ 各大学の実情、他部署からの図書系への見方がよくわかった。(課)
- ・ 人材育成が非常に大事。方向性が見えてきた感じです。(課)
- ・ 人材の育成について、今後の指導方針に役立つと思った。(課)
- ・ 各大学の個々の事情にもよるが、全国レベルの事情の把握ができ、参考となりました。(課)
- ・ 初めての参加ですが、新参者にとってはためになりました。(課)

- ・この4月から初めて図書館の仕事を担当することになったので、とても良いタイミングのテーマであった。〔課〕
- ・情報系との統合が課題となっている。〔課〕
- ・講演の対象者が不明確(例えば、管理職1年目、図書系でないのに図書館の課長になった、など、絞った方がよいのでは)。〔無〕

## (2) 学術情報基盤の中核としての図書館の人材基盤について

### (5:たいへん参考になった)

- ・但し、スライド No.21 の「図書館が求める人材」で「専門職業務である」とのことであったが、例えば医療業務や契約業務と比較しても耐え得る説明となるかが気になった。〔課〕

### (4:参考になった)

- ・改めて問題点を整理するきっかけとなった。〔課〕
- ・論旨が明解。〔課〕
- ・情報が豊富。〔課〕
- ・本学のように小規模の図書館においては、課題・問題点を解決するのが困難という認識を持っているが、できることから実行したいと思う。〔課〕
- ・様々の専門性は理解しうが、「その人材は図書館において量的にどの位必要なのか」が問題だと思う(専門性(職)の必要度)。〔課〕

## (3) それで大丈夫、図書館職員

### (5:たいへん参考になった)

- ・大久保部長のお話は、非常に率直で有意義でした。〔部〕
- ・大久保部長の話は大いに共感した。〔部〕
- ・図書館以外の部長からみた図書館職員については、フレッシュな思いで聞くことができました。他部局との交流も考えていく必要がある。図書館サポーターを増やすことの必要性をより感じる事ができた。〔部〕
- ・大久保部長の守備範囲の多さの中、図書館業務への取り組み方(産学連携、外部資金等の導入と取り込み)がとても参考になった。〔部〕
- ・図書館職員の今後の育成の在り方について、外部(非図書系)の目から見た意見や方向性を知ることができたから。〔課〕
- ・図書系以外からの視点による意見は貴重。〔課〕
- ・図書の専門職でない管理職の目線に立った話で、有意義であった。〔課〕
- ・他系部長の話は傾聴すべきと思った。〔課〕
- ・大久保部長の図書館コミュニティの外から見たご意見は納得させられるものであり、今後、実践を心がけたいと思います。図書館サービスを充実させるためにも、まず職員が元気になる環境づくりを考えたいと思います。〔課〕

- ・ 大久保さんの話を現場の職員にも聞かせるようにしたらいいのでは。〔課〕
- ・ 前説が長く、本題がかけ足で不十分な気がする。〔課〕

(4: 参考になった)

- ・ プレゼンターが大学図書館プロパーの方でなかったから。〔部〕
- ・ 図書館専門職以外の人からの見方が新鮮だった。〔課〕
- ・ 図書館の外からの視点を再確認できた。どう見られているかが興味深かった。〔課〕
- ・ 図書館が外からどのように見られているかを意識づけるものとしての内容であった。〔他〕
- ・ 外から見た意見を取り入れた内容でよかった。〔他〕
- ・ 私自身も行政系であるので、専門家集団の中での管理職の役割を考える上で参考になった。〔課〕
- ・ 教学、特に教員、学生からみたら、図書館職員を一定人数現場に出す必要がある。〔部〕
- ・ わかりやすいが、何か足りないように思える。〔課〕

(3: ふつう)

- ・ 与えられた時間内で説明願いたい。〔部〕

(4) オープン・ディスカッション

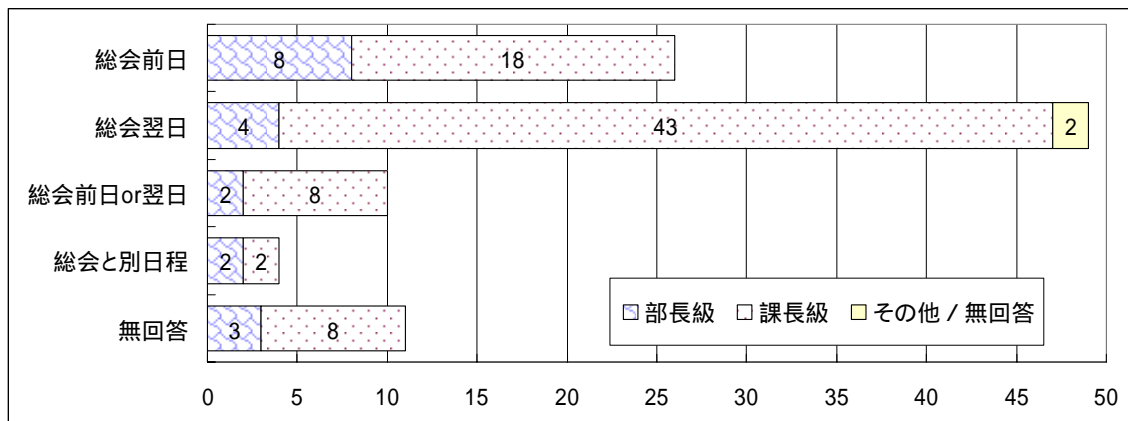
(4: 参考になった)

- ・ もう少し少人数であれば、もっと活発な議論ができたのでは？〔部〕
- ・ 多様な意見が聞けた。〔課〕
- ・ プレゼン時間を少なくして、参加者が発言できる時間を多くする。グループ分けも可。今回は比較的活発であったが、もっと他大学の意見をききたかった。〔部〕
- ・ フロアと議論する時間をもう少し確保してほしい。〔部〕
- ・ ディスカッションの時間が短い(マネジメント・セミナーは1日が良い)。〔課〕
- ・ もっとみなさん発言されるといいのに、と思います。いつもです。〔課〕
- ・ 話が分散してしまうのはどんなものかと思います。意見が出ない会議よりは、よっぽどましではありますが。〔課〕

(3: ふつう)

- ・ オープン・ディスカッションで色々な意見(考え方)を聞くことができたことは良かった。〔課〕
- ・ 時間が少なかった。〔課〕
- ・ コーディネータの発言が長すぎる。もっと会場にうまく発言を促すべき。〔課〕
- ・ 議論に発展性があったのかないのか不明。〔課〕
- ・ だらだらと感想を発表する人がいるのは問題。〔課〕

## セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)



	部長級	課長級	その他	合計
1. 総会の前日がよい	8	18	0	26
2. 総会の翌日がよい	4	43	2	49
3. 総会前日・翌日のどちらでも(1と2の複数回答)	2	8	0	10
4. 総会とは別に日程を組んだ方がよい	2	2	0	4
無回答	3	8	0	11

土曜開催に対する疑問・反対のコメント: 9件

### 【理由】

#### (1. 総会の前日がよい)

- ・ 翌日の総会の議論に役立てるため。〔部〕
- ・ 総会の事前会議として、新任管理職の研修機会を提供する。〔課〕
- ・ あらかじめ聞いておくと、総会時の参考になることもある(特に初参加者)。〔課〕
- ・ 総会出席がメインだと思うので、その前に受講した方がいいのではないかと。〔課〕
- ・ 内容について、夜の交流会で話を聞ける。オープン・ディスカッションだけではもったいない。〔課〕
- ・ セミナー内容によるが、館長にも聞いてもらいたいものもある。〔課〕
- ・ 参加しやすさ、運営にかかる負担の軽減化(特に当番館の負担)の点を考えると、総会の前日が望ましい。〔部〕
- ・ 日程に無理がかからない。〔課〕

#### (2. 総会の翌日がよい)

- ・ 総会の空気を持って(モチベーションが上がった状態で)マネジメント・セミナーに参加するとよい。〔部〕
- ・ 総会と連日がベターだから。総会のテーマ等を踏まえたセミナーでのテーマを設定し、勉強できるから。〔課〕
- ・ ゆったりした気持ちで参加できますので。〔課〕

- ・ 連続した方がよい。総会の後の方が、マネジメント・セミナーとしてゆっくり話せるのでよい。〔課〕
  - ・ 総会終了後であれば、参加しない時の日程調整がしやすい。〔課〕
  - ・ 館長のスケジュールを考えると、今回の日程は合理的なのではないかと思えます。〔課〕
  - ・ 館長フォーラムと併行できる。〔課〕
  - ・ 時間の有効活用(前日では、総会開始時刻までの時間がもったいない)。土曜日開催については要検討を希望。〔課〕
  - ・ 平日に実施願いたい。〔課〕
  - ・ 但し、土曜日開催は再考されては？〔課〕
  - ・ 総会当番館の負担も考慮し、金・土よりも木・金の方が望ましいと考える。〔課〕
  - ・ 両方で1日になりませんか。開催される大学も大変でしょうし。〔課〕
  - ・ 従来どおりでよいのでは。〔課〕
  - ・ 総会が今回のように午後の半日である以上、総会の翌日しか無理。〔無〕
  - ・ 今回の全体の日程でよい。〔他〕
  - ・ 土曜の設定は良いと思います。〔課〕
- (3. 総会前日・翌日のどちらでもよい(1と2の複数回答))
- ・ 日程的に総会と連続して行うことが望ましい。〔部〕
  - ・ 日程が総会とくっついていた方が出張しやすいです。〔課〕
  - ・ 前・翌日どちらでも違いはないと思われる。また、同一日でもよいのでは。〔課〕
  - ・ 前日でも翌日でもどちらでもよい。〔課〕
  - ・ 平日に実施を望む。〔課〕
  - ・ 土曜日の開催は好ましくない。総会の前後で平日がよい。〔課〕
  - ・ 総会とセットがよいが、土曜はさけていただきたい。〔課〕
  - ・ 総会前・後日どちらでもよいが、土曜日は避けるべき。ワークショップとセミナーを一体化すればよいのでは。〔課〕
- (4. 総会とは別に日程を組んだ方がよい)
- ・ 本当に参加を希望する方のみで行うことで、もっと実質的なセミナーになるのでは。〔課〕
  - ・ 以前実施されていた部課長会議のように、東京で日帰りできるように。〔部〕
  - ・ 6月は経営協議会、産学官連携推進会議等と重なるため、出席が厳しい。〔部〕
- (無回答)
- ・ 何故土曜日(勤務を要しない日)に開催するのか。〔部〕
  - ・ 総会の日程の中に組み込む方向で検討していただきたい。〔課〕

今後のセミナーで希望するテーマ 末尾の( )内数字は同様意見の数

- ・ 今回のテーマの継続をさらに深めていくことが望ましい。(部)
- ・ 今回の企画を継続してもらいたい。(部)
- ・ やはり、マネジメントに関する管理者養成を強化するのがよいと思う。(課)
- ・ 再度、人材について。(課)
- ・ 人材育成(課)(2)
- ・ 人材育成と具体的な進め方など(課)
- ・ 人事交流(部)
- ・ 図書館職員の養成(OJB等)(課)
- ・ 図書館職員のキャリアパス(大学職員全体のキャリアパスの中での位置付け)(課)
- ・ 海外の図書館における図書館の将来計画や、図書館職員の人材育成・キャリアパスについて(課)
- ・ 図書館職員の意識改革(課)
- ・ 図書館の存在と職員の意識改革(他)
- ・ 定員削減に対する図書館の状況(課)
- ・ 図書館のコア(中心的専門職)人材と人材外部委託(課)
- ・ 図書館業務の外部委託(課)
- ・ 図書館業務はどこまで外注ができるか(何ができて何ができないのか)。(課)(2)
- ・ 人材・人事も重要だが、大学経営や審議会状況などの管理職として必要な知見を得られるようなテーマも併せて。(部)
- ・ 大学内における図書館の組織的な位置づけについて。特に情報関連部署との関係において。(部)
- ・ 大学が求める図書館像(課)
- ・ 図書館の任務と大学での位置づけ(課)
- ・ 図書館経営について(部)
- ・ 図書館経営の問題(部)
- ・ 数字で見る大学経営(経営分析入門、経営を見る視点を学ぶ、大学図書館経営を考えるためにも(既にやられているかもしれませんが。))(課)
- ・ 経営(大学と図書館)(課)
- ・ 大学経営と図書館経営(財務)(課)
- ・ 財政基盤(課)
- ・ 財務状況から見た図書館(図書館の割合、電子資料への投資割合、学生用図書費の割合等々の評価)(課)
- ・ 今後の図書館のあり方(課)
- ・ 図書館の自己/外部評価のあり方(課)
- ・ 各大学の図書館活動の紹介、参考になる取り組み(課)

- ・ 図書館運営の先進的？取り組み〔課〕
- ・ 機関リポジトリについて〔課〕
- ・ 著作権統一 DB〔課〕
- ・ 著作権と図書館〔課〕
- ・ 図書館経営、図書館サービス、人材育成について、私立大学から話を聞きたい。〔課〕
- ・ 私立大学について〔課〕
- ・ 例えば、図書館業界外の講師の講演など。〔無〕

#### セミナーの感想、希望、意見等

- ・ 私立大学の状況が知りたくなった。〔課〕
- ・ セミナーの目的・対象とする参加者を絞り、そのことを示して参加者を募ってほしい。〔無〕
- ・ 講演を短く、講演者数を多く(3～4人)。〔課〕
- ・ 参加型・記入型にして事前に質問。聞くだけではどうなのでしょう？〔課〕
- ・ 人材育成は図書館だけの問題ではない状況であり、他部署も含めて同じ課題を有している。マネジメント・セミナーそのものの見直しの時期が来ているのでは。今までのセミナーに出席して、自己変革した人がどれだけいたかギモン。ついでに、国大図協の総会についても見直しが必要では(総会として、現状の課題に対して、決議をすべきでは)。〔部〕
- ・ 初めての参加であり、前日の総会時のワークショップと今回のセミナーの構成が同じつくりなので、どちらか一つでもよいのでは。〔部〕
- ・ プレゼンで使用された PPT は、国大図協の HP で公開してほしい。〔部〕
- ・ 100 人も出席するセミナーであるのに、会場が狭い。〔部〕
- ・ NII の実務研修 3 か月は長い。1 か月程度がよい。〔課〕
- ・ お世話になりました。〔課〕
- ・ ありがとうございました。〔課〕

以上

## 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム実施要項

1. テーマ 利用者から学ぶ 一個性的で多様な図書館サービスに向けてー

### 2. 趣旨

国立大学法人が発足して5年が経過し、まもなく第1期中期目標期間が終了する。

この間、大学図書館は、各法人の組織機構の改編、財政・人的基盤の再編、運営方式の見直しなどの多様な変革の中で、図書館サービスの高度化を模索し、教育研究支援機能の強化、社会地域貢献など、多彩な取組みが多くのレストランで展開された。

本年度のシンポジウムは、第1期中期目標期間に展開された各種図書館サービスに対する利用者による認知度や評価の測定、利用者からの意見・要望の把握、更には図書館経営への反映など、各館の「利用者から学ぶ」優れた取り組みの事例発表を中心に据え、シンポジウム参加者がそのノウハウを共有し、次期中期目標期間において展開すべき、さらに個性的で多様な図書館サービスに資することを目的とする。

### 3. 主催及び会場館

主催 国立大学図書館協会 共催 国立情報学研究所  
会場館 神戸大学附属図書館（西日本会場）  
一橋大学附属図書館（東日本会場）

### 4. 会場及び開催日時

#### (1) 西日本会場

神戸大学 社会科学系フロンティア館（3階）プレゼンテーションホール  
平成21年11月20日（金） 13:30 ～ 17:30

#### (2) 東日本会場

一橋大学 国立東キャンパスマーキュリータワー（7階）会議室  
平成21年12月15日（火） 13:30 ～ 17:30

\*いずれの会場も、終了後に懇親会を予定しています。

### 5. 参加資格及び定員

国立大学図書館協会会員館及び公私立大学図書館に所属する職員で、本シンポジウムのテーマに関心のある方。

図書館実務経験5年～15年程度の若手及び中堅職員を想定していますが、その他の方もご参加いただけます。

各会場 50名程度（予定）



## 6. 参加申込

(1) 参加希望者は、東・西いずれかの会場を希望することができます。  
参加希望者が各会場で予定定員を超えた場合は、調整することがあります。

(2) 参加希望者は、電子メールにて次の要領で「参加申込」をしてください。

申込先 京都大学附属図書館総務課（人材委員会事務局）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

E-mail sympo2009 [at] kulib.kyoto-u.ac.jp （参加申込先）

メールアドレスの[at]は、@に置き換えてください。

電話 075-753-2613 Fax 075-753-2629

申込期限 西日本会場（神戸大学） 平成21年11月6日（金）

東日本会場（一橋大学） 平成21年12月1日（火）

申込内容 電子メールの件名を「国大図協シンポジウム参加申込」とし、本文に以下の内容を明記してください。

- ・氏名（ふりがな）
- ・所属・職名等
- ・連絡先メールアドレス
- ・懇親会参加の有無

\*なお、開催当日に連絡等がある場合は各会場の下記担当へ連絡をしてください。

西日本会場 神戸大学附属図書館情報管理課企画係 078-803-7315

東日本会場 一橋大学学術情報課学術図書総務主担当 042-580-8224

## 7. プログラム

別紙「平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム『利用者から学ぶ』」のとおり

## 8. その他

- (1) 参加に要する旅費等は、参加者の所属する大学等の負担となります。
- (2) 参加可能な場合の通知はいたしません。希望者多数の場合、参加不可の方に対してのみ連絡いたします。
- (3) 懇親会費は4,000円程度を予定しています。懇親会費は当日申し受けます。
- (4) アクセスについて

西日本会場 神戸大学／アクセス・マップ

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/from-far.htm>

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/from-station.htm>

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/seimon.htm>

[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/www/modules/main/index.php?content\\_id=35#access](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/www/modules/main/index.php?content_id=35#access)

東日本会場 一橋大学／アクセス・マップ

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/kunitachi.html>

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html>

参加費  
無料

# 利用者から学ぶ

— 個性的で多様な図書館サービスに向けて —

西日本会場（神戸大学）平成 21 年 11 月 20 日（金）13 時 30 分～17 時 30 分

会場 神戸大学 社会科学系フロンティア館（3 階）プレゼンテーションホール  
定員 50 名（先着順）▶ 参加資格 国立大学図書館職員（公立・私立大学図書館からの参加可）

【プログラム】 ※受付は 13 時 00 分からはじめます。

13 時 30 分	開会	
13 時 40 分	基調講演	竹内比呂也（千葉大学文学部教授）
14 時 25 分	事例報告 1	山本 知美（長崎大学学術情報部学術情報サービス課主査） 「教員へのアンケートに拠る図書館の教育支援機能の展開について」
	事例報告 2	岡田 高志（大阪大学附属図書館図書館企画課企画係長） 「大阪大学における LibQUAL+® 実施」
	事例報告 3	前川 敦子（大阪教育大学学術部学術情報課天王寺分館サービス係長） 「米国大学図書館における図書館サービス測定・評価の活用事例」
	事例報告 4	鈴木美智子（香川大学学術室情報図書グループチーフ） 「香川大学図書館利用者アンケートに見る期待と反省」
16 時 10 分	オープンディスカッション	
17 時 30 分	閉会	

申込期限  
11 月 6 日

東日本会場（一橋大学）平成 21 年 12 月 15 日（火）13 時 30 分～17 時 30 分

会場 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー（7 階）会議室  
定員 50 名（先着順）▶ 参加資格 国立大学図書館職員（公立・私立大学図書館からの参加可）

【プログラム】 ※受付は 13 時 00 分からはじめます。

13 時 30 分	開会	
13 時 40 分	基調講演	逸村 裕（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授）
14 時 25 分	事例報告 1	胡内奈都子（お茶の水女子大学図書・情報チーム資料管理係） 「学生協働（LiSA プログラム）から学ぶ学習支援サービスの取り組み」
	事例報告 2	浅尾千夏子（慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター・レファレンス担当） 「利用者調査 LibQUAL+® の実施とその活用—湘南藤沢メディアセンターの事例を中心に」
	事例報告 3	赤澤 久弥（奈良教育大学学術情報研究センター図書館情報サービス担当係長） 「米国大学図書館における Balanced Scorecard の活用事例」
	事例報告 4	半澤 智絵（東北大学附属図書館工学分館整理・運用係長） 「利用者を知る —利用者インタビューによる業務改善」
16 時 10 分	オープンディスカッション	
17 時 30 分	閉会	

申込期限  
12 月 1 日

## 問合せ先・申込み先

▶ 申込み 両会場とも人材委員会事務局に電子メールでお申込みください。



京都大学附属図書館総務課（人材委員会事務局）  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
E-mail sympo2009@kulib.kyoto-u.ac.jp（参加申込先）  
電話 075-753-2613 FAX 075-753-2629